



# 高知県理学療法士協会ニュース

No.177 2023・3・20 発行 公益社団法人 高知県理学療法士協会

## 伝える力

副会長 大畑 剛

新型コロナウイルス感染症が医療機関をはじめ、老健施設や小児施設など多くの領域で猛威を振るっています。感染拡大の背景には、これまで主流だったオミクロン株の「BA.5」による感染に加え、より免疫から逃れやすい新たな変異ウイルスへの置き換わりが進んできていることが影響しているとみられているようです。我々理学療法士は、患者様にコンタクトすることにより治療効果を発揮する特性から、感染症対策には十分すぎる対応が求められます。時には直接介入を避けて対応することもあるでしょう。このような時には「伝える力」が試されるのだと思います。より少ない接触においても一定の理学療法効果を発揮させるには解りやすい言葉で具体的に説明する、あるいはビジュアルを多用した運動指導書の作成など文系の力が必要となってきます。また、多職種とのやりとりもICTの活用など高いコミュニケーションスキルが求められています。

理学療法士とは医学的知識・治療手技・利用者に寄り添う心遣い、更に高いコミュニケーションスキルなど万遍なく取りそろえなくてはならず、改めてなかなかハードな仕事だと再認識をした次第です。

さて、政府は新型コロナウイルス感染症を指定2類から5類相当へ変更する方針としたとのことです（令和5年1月現在）。医療の中で新型コロナウイルス感染症は脅威でもあり、また治療・予防対象疾患の一つとして、更に病床確保にまつわる助成や予防接種事業など医療経済的因子など、複雑にその存在を示しています。これらへの対策の舵取りは厚生労働省をはじめとする役所と政治に大きな決定権があります。理学療法士がこの難局の中、十分に力を発揮できる環境を作るためにも、政治に我々の思いを「伝える」代弁者が必要となります。

ここにきて、我々の代表が政治へ復活する話が飛び込んできました。自民党の参議院議員が辞職したことに伴い、令和元年の参議院選挙の自民党比例代表の名簿から、日本理学療法士協会理事の田中昌史氏の繰り上げ当選が決まりました。我々に伝える力が戻ってきます。ぜひ会員一人一人がこの「伝える力」を大切に育んでいただければ幸いです。



“参議院議員 理学療法士 田中まさしHP” より

### No. 177

◇ 伝える力 .....	1	◇ 四国理学療法士会創立50周年記念式典の報告 .....	7
◇ リレー紹介 .....	2	◇ 健康安全運転講座 開催報告 .....	8
◇ 新生涯学習制度のコーナー .....	3	◇ 知読万恵 .....	9
◇ 施設紹介 .....	4	◇ 第51回四国理学療法学会のご案内 .....	10
◇ 新年交流会の参加報告 .....	5	◇ 賛助会員の皆様 .....	11
◇ 第50回四国理学療法士学会に参加・発表を終えて .....	6	◇ 令和5年度 学会・研修会予定表 .....	12
◇ 自由投稿 .....	6	◇ 編集後記 .....	12

## 会員紹介

細木病院 島津 平

皆さん、はじめまして。ミス細木リハ課の門田早侑梨さんからバトンを受け取りました細木病院で理学療法士をしております島津平と申します。

私は高知リハビリテーション学院の43期生で卒業後、細木病院に入職して今年の4月から10年目になります。細木病院ではこれまでに維持期・回復期・急性期・外来とさまざまなユニットを経験させていただき、昨年の6月からは再び回復期で勤務させていただいております。

プライベートでは一昨年の7月に長男と次男が同時に誕生し、賑やかな毎日を過ごしております。双子ですが二卵性ということもあり顔も性格も少しずつ違っています。そんな二人も1歳半になり、元気に走り回っています。

子供が生まれる前は旅行やキャンプ、ゴルフなどを趣味として楽しんでおりましたが、現在は子育てやコロナ禍の影響でこれらの趣味は制限されました。その代わりに今は子供を連れてドライブに出かけたり、公園などに遊びに行ったりと新たな休日の楽しみができました。

子供達も色々なことに興味を持ち始めたので今後新たな散歩コースや初めての公園など開拓していきたいと思っています。

まだまだ高知でも新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていますが、子供たちがもう少し上手に歩けるようになる頃には終息して、山や川や海などに連れて行ってあげられるようになっていくことを願っています。

以上、簡単ではありますが自己紹介とさせていただきます。

次は入職して以来、公私ともに大変お世話になっております同じ細木病院の山本純也さんにバトンタッチをさせていただきます。それではよろしくお願ひします。



南国中央病院 甫木 啓徳

初めまして。専門学校の同期、南国中央病院での同僚である宮地悠平さんからバトンを受け取りました。以前は土佐清水市にある渭南病院で勤務していた甫木啓徳です。

渭南病院では早期離床、内科疾患、脳血管など主に急性期での理学療法を提供していました。現在は回復期リハビリテーション病棟で主に脳血管、運動器疾患の患者様に理学療法を提供しています。以前の職場とリハビリを提供する患者様の年齢層・対象疾患が異なりますが、急性期以降の患者様が回復する過程、在宅復帰に向けての支援の難しさにやりがいを感じながら働いています。

プライベートでは妻、2歳の娘と賑やかに暮らしています。自分で階段を登ったり、ボールプールで楽しそうに遊んだりと活発な女の子です。2～3語文を喋ることが増え、「シマシマー（シマウマ）、おった」「ふーちゃん、スパー、いく」といろいろ喋ってくれます。動物全般が好きですが特にワンワン（犬）が好きで、寝るときは犬の人形に囲まれながら寝ています。ちょうどイヤイヤ期の時期であり、少し泣いているところに行くと「パパイヤ」と言われ、逃げられています。去年から南国中央病院で勤務しており、慣れない仕事、イヤイヤ期の娘と1日1日があっという間に過ぎていっています。

次は専門学校の同期であり、同じバスケサークルだったもみのき病院の元吉由伎さんにバトンを回したいと思います。よろしくお願ひします。



※バトンを引き受けた会員の皆様は、令和5年4月15日までにkouhou@kopta.netまで原稿をお送りください。

## 新生涯学習制度のコーナー 登録理学療法士更新ポイント～問題回答編～

広報部 田口 貴文

皆さん、偶数月にお手元に届く日本理学療法士協会会報誌である『JPTA NEWS』はご覧になっておられるでしょうか？私は、以前は恥ずかしながらあまり目を通していませんでした。しかし、いつの頃からか理学療法士をとりまく環境にも興味を持ち、手元に届くと、目を通すようになりました。いろいろなコーナーがあり大変参考になっているのですが、その中で私が大好きなコーナーがあります。それは、「生涯現役」というコーナーで、会報誌の後半部分の14頁に掲載されています。このコーナーでは、生涯現役で活躍されている大先輩方が紹介されており、会員の皆さまへ貴重な経験をもとに、熱い想いを綴られています。ここに紹介されている先輩方は、今の日本の理学療法士業界を作り上げてこられた方ばかりで、皆さんに共通されているのは、今では制度化された『生涯学習制度』ができる遥か前より、理学療法士という専門職の質を保証するために学び続けられているという点です。このような先輩方の背中を追っていくために、という意図があるかは分かりませんが、このコーナーのすぐ下には2022年6月号から開始された『コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイント問題回答』のコーナーが設けられています。QRを会員専用アプリで読み込み、5問ほどの設問に全問正解することで、1ポイント取得できます。不正解でも何度でも回答しなおせますので、皆さんもぜひチャレンジしてみてください。ちなみに回答期限は発行日から2か月となっているようです。



コツコツ学ぼう！  
登録理学療法士  
更新ポイント  
問題解答

★「JPTANEWS」は偶数月発行です。

★「日本理学療法士協会雑誌」は2023年2月創刊予定です。

★すべての問題に解答、全問正解することで1ポイント付与されます。

★なお、既に関カリキュラムコードでポイントを取得されている場合、ポイントの加算はありません。また、同カリキュラムコードで0.5ポイントを取得されている場合も1ポイント(取得済ポイントよりも高いポイント)への上書きはされません。予めご了承の上、ご解答をお願いします。

	JPTANEWS	日本理学療法士協会雑誌
2022年6月	<カリキュラムコード>【区分:11】132: 認知症の障害 <セミナー番号>100894	
2022年7月		
2022年8月	<カリキュラムコード>【区分:1】14: 医療制度と法律 <セミナー番号>101321	
2022年9月		
2022年10月	<カリキュラムコード>【区分:9】111: 消化器疾患 <セミナー番号>102561	
2022年11月		
2022年12月	<カリキュラムコード>【区分:1】17: 個人情報保護法 <セミナー番号>調整中	
2023年1月		
2023年2月	<カリキュラムコード>調整中 <セミナー番号>調整中	<カリキュラムコード>調整中 <セミナー番号>調整中
2023年3月		

※「JPTANEWS」を利用した問題解答は2022年6月号から開始

# 施設紹介

## 訪問看護ステーション IAm

訪問看護ステーション IAm 森岡 義治



訪問看護ステーション IAmは平成28年7月1日より、土佐市高岡町を拠点として、看護師3名、理学療法士2名の計5名で開設しました。現在は7年目を迎え、令和5年2月1日現在で看護師6名、理学療法士6名、作業療法士2名、事務2名、計16名の事業所となっております。対象エリアは土佐市、いの町（旧伊野町、吾北）、日高村、高知市（春野、朝倉）で、地域で生活されている方々に生じてくる医療的な問題に対し、医療専門職が力を合わせ、日々解決に向け取り組んでいます。

「IAm」という名は、病気や障害により自己喪失感を抱いている方々に対し「本来の自分はこうだ」と自己肯定感を得るところまで支えたい意味があり、全人間的復権という本来の意味でのリハビリテーションを目指しています（BON JOVIの隠れた名曲からいただいたのは内緒）。また、私は開設者ですが理学療法士でもあり、療法士には「姿勢の評価を共有する」とのコンセプトで取り組んでいます。

私は開業以前に2箇所の訪問看護事業所での勤務経験があります。そこで看護師は評価手法を共有し、そこから各々のやり方が展開されることが多いことに対し、療法士の評価は末梢、中枢器官、そして精神面などのスタッフ個々でさまざまであり、そこからやり方もさまざまということが、同じ医療専門職でありながら大きな違いと感じていました。それが原因なのか、看護師同士の議論は日々活発ですが、療法士はその面で比べておとなしいと感じていました。また、私は訪問で療法士に依頼がある事例を経験していく中で、多くの場合にその問題と関係があると思われる何かが姿勢に現れていると考えるようになりました。これらの経験から開業当初よりこのコンセプトでの運営を考えていました。

現在では徐々に適応できるレパトリーも増え、他の療法士の臨床を直接見れない状況での情報共有や教育、また上手く看護師と協業する、との課題がある訪問看護事業に、とても適したコンセプトだと手応えを感じています。

そのコンセプトに対しては環境面でも取り組んでいて、AI姿勢解析アプリを導入、また事業所には多くの解剖模型を所有し、評価や技術練習にも役立てています。訪問看護事業所でこれほどの収集は珍しい、それは必要なかと思われるかもしれませんが、ほとんどは単純に私の技術オタク気質、収集癖が影響しています。また、そのせいだけでなく、これからの時代の療法士には必須と考へ、しっかり性能の良い運動器エコー機器も所有しています。その他多くの専門書籍所有、eラーニングのアカウント提供、研修費補助をしており、専門職としてキャリアアップできる職場を目指しています。そのこだわりには、やはりリハビリテーションを目指すならば医学的リハビリテーションは何かしらの効果がなければ成り立たないですし、しっかりと専門職としてチームの中での役割を果たしていく考へがあるからです。

一方で生活期では、社会リハビリテーションをすすめていくことが人が元気になる大事な要素と考えていて、帯屋町商店街にあるタウンモビリティに研修参加や、土佐市社会福祉協議会主催の協議体参加、地域の介護事業所の会開催などで環境作りや我々の視点作りに取り組んでいます。

いずれもコロナ禍で停滞していましたが、ようやく今年5月に5類への移行が決まりましたので、今後再開を考えています。また、コロナ禍前は、社会リハビリテーションへの取り組みの一貫で地域を知るといふ大義名分を掲げ、幾度もこの地域の店で飲み会をしていました。ここ何年も開催できなかった「土佐のあか牛をたらふく食べるバーベキュー大会」を、訪問エリアのいの町で購入し仁淀川の河原で、今年こそスタッフの家族も呼んで盛大に開催したいと思います。

最後になりましたが、私はリハビリテーションの言葉は誤って日本に輸入されたと思っています。そして現在と未来の日本にその理念は必ず必要だと考えています。我々はその理念を共有しながら地域の人々を笑顔に変えていくことで、本来のリハビリテーションを現場から定着させていきたいと思っています。



「地域の人々を元気にするために、多職種で仲良く、厳しくチームで取り組んでいます」



「近所の園児には、あそこはやばい骸骨館と恐れられているとか」

## 新年交流会の参加報告

くぼかわ病院 東 大和生

2020年2月8日、土佐御苑で開催された高知県理学療法士協会新年交流会。ちょうど大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス感染事例が報告された時期でした。その後、2月11日にCOVID-19と命名された本感染症は3月11日にWHOがパンデミック宣言を行い、我が国においても...と書き進めているうちに「新年交流会の参加報告」と趣旨がズレていきそうなので話を戻します。

2020年2月8日の新年交流会が、対面で行った最後の交流会でした。その後、対面での交流が厳しくなりましたが、厚生部の相原部長をはじめ、部員の皆様の知恵と努力によって、翌年からはZoomを使ったオンライン交流会が企画されました。ビール片手にパソコン画面の向こう側、宮本会長の「協会・会員に対する思い」を聴く、そしてランダムに振り分けられた5-6人のグループに分かれ、それぞれの近況や思いを語り合う。我々理事は会員の声を聴く。最後にオンラインくじ引きで豪華景品が当たるように祈る。ちなみに一昨年はハズレ、去年はGarminの時計、今年はカラスミが当たりました。

「次は対面で」と言いながら3年経過。「次こそは対面で!」。その際は多くの会員のご参加を願っております。理学療法士の未来、これからの協会について語り合いましょう!



「2023年2月4日 新年交流会の様子」

## 第50回四国理学療法士学会に参加・発表を終えて

愛宕病院 竹内 友哉

今回は第50回四国学会で重度認知症患者への指示理解の検討という内容で発表させていただきました。認知症は高齢化の進展に伴い増加し、当院でも担当になる機会は多いのですが脳の障害や持ち合わせた性格、生活していた環境などによって特異的な症状が出現するため認知症というテーマでの発表は私にとってハードルが高いものと感じていました。凄く難しい内容でしたが、職場の先輩や周囲の協力を得て挑戦しました。発表スライドや抄録は主観的な内容になりやすかったのですが院内での発表を何度もさせていただきいろいろな方からの助言を



いただくことで客観的に見ても理解・納得しやすいものを作成できたと感じました。

学会当日も座長からの質問や他の発表や評価・治療・研究方法が参考になり、自分の視野が凄く広がりました。このような経験は学会に参加・発表することでしか得られないものでした。今回の学会参加・発表したことを振り返りながら臨床の活動や患者様への治療をより良いものにしていきます。リモート学会を運営いただいた皆様、学会発表に協力いただきました職場の先輩方に感謝しています。ありがとうございました。

自由  
投稿

## 「医療安全研修の講師を務めて」

いずみの病院 澤本 俊彦

2022年11月26日に開催された医療安全研修において、「新型コロナウイルス感染病棟における理学療法」というテーマで講師を務めさせていただきました。形式はZOOMによるオンライン研修にて行い、対象者は県内外で総勢100名の理学療法士を対象に実施しました。発表にあたり最も難渋した点は、現場での取り組みやリハビリの様子を受講者に対してどのように伝えていくかということでした。コロナ病棟は感染区域として、レッド、イエロー、グリーンゾーンに分けられていました。陽性患者のいるレッドゾーン内には、一度物品を持ち込むと感染対策のため72時間経過しないとゾーン外に出せない規定でした。そのため、現場の写真や動画撮影で頭を悩ませました。写真はレッドゾーン内に設置してあるタブレットと、グリーンゾーン内にあるタブレットを接続し、スクリーンショットで撮影した画像を取り込みました。動画は、レッドゾーン内で撮影したものをメモリースティックに保存し、72時間後に持ち出した後、パソコン内に取り込む工夫をしました。一人での作業は難しく、リハビリスタッフだけでなく看護師など多職種の方々にも協力をいただきました。

ZOOMの講義は90分間でしたが、自分のペースで進めることができ、時間もちょうどに終わることができました。当院でのコロナ病棟におけるリハビリや取り組みについて他院の皆様にも知っていただき貴重なアドバイスもいただくことができました。今回、経験したことや見つかった課題に対して向き合い、今後の業務に活かしていきたいと思えます。

## 四国理学療法士会創立50周年記念式典の報告

高知県理学療法士協会 副会長 小笠原 正

2022年11月26日（土）、JRホテルクレメントとくしまにて「四国理学療法士会創立50周年記念式典」が開催されました。当日はコロナウイルス感染拡大の影響もあり、人員を制限しての開催となりましたが、対面・オンラインで約70名の参加がありました。式典では、日本理学療法士協会常務理事の森本栄氏による記念講演の後、齋藤日本理学療法士協会協会長、小川前参議院議員、飯泉徳島県知事をはじめとする来賓の挨拶に続き、四国理学療法士会の歴代会長（功労分野）や、四国理学療法士学会に過去10本以上発表のあった会員（学術分野）に対し表彰が行われました。ちなみに当県からは、功労分野では中屋久長会員、山本双一会員、宮本謙三会員が、学術分野（当県推薦者）では、阿部敏彦会員、川村博文会員、沖田学会員、榎勇人会員、竹林秀晃会員、滝本幸治会員がそれぞれ表彰されました。

当日は感染対策のため記念祝賀会は中止となりましたが、四国理学療法士会創立50周年記念にふさわしい記憶に残る式典であったと感じました。式典にて表彰を受けられました会員の皆様には心よりお祝いを申し上げます。

### ○学術表彰を受賞して

土佐リハビリテーションカレッジ 竹林 秀晃

2022年11月26日に四国理学療法士会 創立50周年記念式典が開催されました。式典では、四国理学療法士学会で10回以上の発表者に対して学術表彰が授与されました。私は発表回数20回ということで表彰していただきました（写真右6番目）。理学療法士になってほほくかさず発表しようとして今まで継続することができ、それを認めていただいたことは非常にうれしく思います。また、もっと嬉しかったのは、高知の関係者が非常に多く、憧れの先生方（川村博文先生：右4番目、阿部敏彦先生：右2番目）、同期（榎勇人先生：右3番目、沖田学会員：別学会のため不参加）・同僚（滝本幸治先生：右5番目）と一緒に表彰されたことです。

四国学会に参加することで多くの経験ができたことはもとより、多くの人との出会いがあり、切磋琢磨できることがこの四国理学療法士学会の良いところだと思います。ぜひ、みなさんも挑戦してみたいか。きっと通常業務とは違ったものが得られると思います。また、受賞者は、発表回数がリセットされるということなので、回数はもとより質の向上を目指して次の60周年に向けて頑張っていきたいと思います。



## 健康安全運転講座 開催報告

愛宕病院 沖田 学

高知県は高齢者ドライバーが多い県です。運転免許の返納率は12.2%で全国44位（警察庁令和3年版運転免許統計）です。これは高知県民の運転免許の必要性を表しているデータだと思えます。今回、開催された健康安全運転講座は、高齢者が安全に車の運転を続けることができる生活をサポートすることを目的とした活動です。これは高知ダイハツと高知県理学療法士協会、JAF高知支部、高知市健康福祉部 基幹型地域包括支援センターの産学官民が連携して実施する運転講座です。この講座はダイハツグループが行っている地域密着プロジェクトで、高齢化が進む地域社会で「いくつになっても自由に移動できる自立した生活」を産学官民の連携によりサポートする活動の一環です。高知ダイハツ朝倉店で2022年11月15日に開催され、12名の高齢ドライバーの方に参加いただきました。

まずは健康と運動能力の簡単なチェックです。血圧を測り、片脚立位時間と注意能力検査のTMT-A・Bを実施し転倒歴を確認します。なぜか？開眼片脚立位が20秒以下だと転倒リスクが高まります（村永、PTジャーナル43, 2009）。高齢者の転倒は運転能力との関係があります。年間2回以上の転倒経験がある高齢ドライバーは、過失のある自動車事故を約2倍起こします（Huisingh. J Am Geriatr Soc 62, 2014）。また、高齢ドライバーはTMT-A・Bの注意能力が運転能力に関連している（Katsuki. Surg Neurol Int 12, 2021）ことが分かっており、注意能力は運転能力に欠かせません。

次に、高知市健康福祉部から「いきいき百歳体操」の紹介と実践を行い、運動習慣の重要性を紹介します。可動域制限は事故に関連します。例えば、駐車券を取る際に窓外に手を伸ばし、その時にアクセルとブレーキを踏み間違い事故を起こすことがあります。これは股関節の可動性が原因の一つです（平川、交通事故分析レポートNo.124, 2018）。運動能力とともに体の柔軟性への視点も重要です。

そして、高知県理学療法士協会からは2022年5月に実施された道路交通法の改正の要点を伝え、運転における認知機能の重要性と認知機能の低下に対する対策の紹介を行います。身体運動と認知課題を同時に行う2重課題は認知機能のみでなく脳萎縮の維持改善効果が報告されています（Suzuki, PLOS ONE 8, 2013）。この2重課題も紹介して実施しました。

JAFからは運転するときの死角や運転姿勢の指導を行い、ダイハツからは安全サポートシステムの体験会などを行います。道路交通法の改定でもサポカー限定免許の導入など自動車の安全運転支援の重要性が知られています。知っているだけでは実感がありませんが試乗してみると技術の進歩に驚かされます。

高齢ドライバーの方からは、「（私の）運転の能力を見直すきっかけになったよ」など運転について考える契機として受け入れられていました。今後も高知県民の安全運転寿命の延伸に努められるように産学官民の連携をしていきたいと思えます。







## おもしろい解剖学

筋と骨のキホンがマンガでわかる！

〈戸村太郎著，医道の日本社，2017〉

前号(ニュースNo,176)での「…ほめないで…」では、学生だけではないというお声を多く戴いた。**何もしないほうが得な日本** (太田肇著，PHP新書，2022) では、これを若者だけでない日本社会の問題として取り上げ、『共同体の空洞化』につながっているとす。つまり、PT協会員ではありたいが役員はしたくないという「総論賛成、各論反対主義」のパラドックスを、社会学的に哲学的に掘り下げている。米国テック企業の大量解雇がニュースになっているが、こんなことが日本では起こりえないと思ひ『うちの病院』というフレーズを常に口にするほど共同体への帰属意識が強い貴方なら、なおさら「…ほめないで…」の続編のつもりで一読されることをお勧めする。

さて本号で取り上げるのは、解剖学の副本である。これまでもたびたび書いてきたし会長も述べられているように、いまの養成校では“学校で1から10まで教えてくれる”“卒後の診療テクニックに創意工夫がいるとは思ってもない”、そして前岡医療部長が云う『揉み揉み』と『お散歩させる』のがPTと思っている”新入生が増えてきているようである。こんな学生達にとって、養成校での学習の積み上げは意味がなく、国家試験に向けて問題集で解答の練習をするのが勉強の全てで、ゴールは国家試験合格である。つまりは、卒業後に就職して“患者や対象者のために”という意識は持ち合わせていない風である。

こうなると、先ずは理念の教育から始めなければならないことは勿論であるが、得てしてこんな学生は学習習慣がなく特に専門書を読むのは苦痛である。そんな学生に、お勧めの一冊なのだ。タイトルどおりマンガ本になった解剖学教本であるが、PTに必要な運動器の解剖学・運動学の基礎用語は網羅されていて、取り敢えずこれを読破すれば医学や理学療法は面白くなる。基礎用語が習得できていないから、学習意欲がわかず、上級学年の授業についていけなくなるのだから。もちろん、学生にあるいは臨床実習生だけでなく関連職種者に運動器の解剖学の基礎を学んでもらうに、読書が苦手の諸氏に打って付けである。

いまの時代、本を読まなくてもパソコンやスマホ(スマートフォン)でのネット(インターネット)で十分事足りると反論されるかもしれないが、新型コロナ禍で全国の学校が行っているオンライン授業(遠隔授業)が如何に学力低下を招いているかを書いたのが **オンライン脳** (川島隆太著，アスコム，2022) である。ネット検索では学習効果はなく、やはり専門知識は専門書をという常識は生きている。著者によると、スマホ常時使用のスマホ依存症では、何もしないより脳の機能は退化が酷くなっているらしい。便利な世の中になっても、脳はデジタルに素早く適応するだけの進化は起きていないのだ。

いつもながら、辛口論調でスママセン!! でも、質の低下は、嘆いているだけでは向上は見込まれない。何とか底上げする手段を探り続けなければ…。 (山本双一)

### 高知県理学療法士協会 役員選挙について

令和5年度は役員の改選が行われる年になり、例年通り6月に実施される総会におきまして改選の予定です。役員選挙の詳細につきましては、4月末以降に高知県理学療法士協会のHPに情報が掲示されますので、県協会会員の皆さまにおかれましてはご確認をお願い致します。



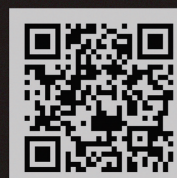
第51回  
四国理学療法士学会

The 51th Academic Meeting of  
Shikoku Society for Physical Therapist

2023.  
**11/25-26**  
(土) (日)  
高知県民文化ホール

— 臨床を科学する —

一般演題募集期間：令和5年4月10日～6月30日（正午）  
参加登録開始時期：令和5年8月14日～



臨床での科学性の追求をぜひ発表してください、  
たくさんのご応募お待ちしております！

↑詳しくはこちらまで！  
【URL】[http://www.kopta.net/51thcst\\_kochi/](http://www.kopta.net/51thcst_kochi/)

学会長：島岡 秀奉（高知県立あき総合病院）  
準備委員長：渡邊 家泰（土佐リハビリテーションカレッジ）

# 賛助会員の皆様

## 令和4年度賛助会員名簿

施設名	住所	診療科・他
(医)瑞洋会 田中整形外科病院	〒780-0901 高知県高知市上町3-2-6 TEL 088-822-7660 FAX 088-875-8583	整形外科、リハビリテーション科、麻酔科、 ペインクリニック内科、リウマチ科、内科(病棟)
(医)新松田会 高知医療学院	〒781-0270 高知市長浜6012-10 TEL 088-842-0412 FAX 088-841-1783	理学療法学科
(医)白菊会 白菊園病院	〒781-1154 土佐市新居萩の里1 TEL 088-856-1101 FAX 088-856-3364	内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外 科、整形外科、脳神経外科、消化器外科、小児 科、リハビリテーション科
(医)仁智会 ヘルシーケアなはり	〒781-6402 高知県安芸郡奈半利町乙3740-1 TEL 088-738-5566 FAX 088-738-5564	入所、ショートステイ、通所(デイケア)
(学)土佐リハ学院 土佐リハビリテー ションカレッジ	〒781-5103 高知市大津乙2500-2 TEL 088-866-6119 FAX 088-866-6120	理学療法学科・作業療法学科
(社医)仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37番地 TEL 088-822-7211 FAX 088-825-0909	総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、 耳鼻咽喉科、緩和ケア科、放射線科、泌尿器科、 脳神経センター(脳神経外科)、専門外来、セ カンドオピニオン外来、病理診断科、麻酔科

コルセット・装具・義足・義手・杖

# 宮本義肢製作所

(社)日本義肢協会 登録番号 中四国 143

代表者 門脇伸仁

高知市土居町11-15 TEL & FAX (088) 833-6864

## 令和5年度 学会・研修会予定表(令和5年4月～令和5年6月)

日程	事業内容	主催
令和5年5月予定	協会指定管理者研修(初級) テーマ:管理者の人材育成について	職能部
令和5年5～6月予定	新人・転入会員歓迎会	厚生部
令和5年6月18日(日)	令和5年度 定時総会 (場所:土佐リハビリテーションカレッジ)	高知県理学療法士協会
令和5年6月18日(日)	前期研修会(A:初期研修) テーマ:A-1 職業倫理、A-6 生涯学習について	教育部
令和5年6月24日(土)	第1回定期研修会 テーマ:心不全患者の身体所見と理学療法の組み立て方	学術部

### 編 集 後 記

今号の巻頭言では、理学療法士の「伝える力」について述べられています。コロナ禍以前では当たり前にとれていたコミュニケーションも、伝え方に工夫を要する時代になっており、この伝える力のベクトルを患者だけでなく政治の世界にもむけていく必要があると語られています。

また、今号より初めてになります、「自由投稿」の掲載もありました。昨年4月よりスタートした「新生涯学習制度」に則り、県協会の広報誌で記事を執筆していただくことで、登録理学療法士の更新ポイントが取得可能となっています。毎号「自由投稿」にスペースを確保しておりますので、会員の皆様はぜひこちらもご活用ください。もちろん、ポイントに関係なく記事を書きたい!という積極的な方も大歓迎です。

さて、来る5月8日からは、いよいよ新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類に引き下げられます。医療に携わる我々としては、複雑な気持ちではありますが、一般の方からすれば、面会制限が緩和されたり、一般病床数が回復することで入院がし易くなったりと、やはりプラスの面は大きいように感じます。次号では、そんな新たな社会的風潮も交えた内容を盛り込みながら皆様にさまざまな情報をお届けできたらと考えています。お楽しみに。

(濱尾 英史)

高知県理学療法士協会ニュース No.177 令和5年3月20日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会

〒780-0054 高知県高知市相生町1-25 レジデンスノナミ107号室

TEL & FAX (088) 879-8023

<http://www.kopta.net> e-mail:jimukyoku@kopta.net

発行者 宮本 謙三

広報部編集委員会

